



平成30年1月20日。私の念願であった「掛塚屋台囃子保存会創立50周年記念」のイベントが「なぎの木会館大ホール」で開催されました。

オープニングは舞台上に遠州横須賀三熊野神社の祭礼を再現し、「三社祭礼ばやし保存会」の皆さんの奏でるテンポの良いお囃子と山車を引く人たちの「シッタシッタ」という息の合った掛け声に合わせ「おかめ」「ひよっこ」「般若」が舞い踊り、会場は一気にお祭りムードになりました。

その後は「掛塚祭り屋台囃子」の演奏です。西小の2年生が大太鼓と小太鼓、横笛の代わりには鍵盤ハーモニカを使って「大庭囃子」「出船囃子」を、「ひ組」からは人手不足を支える大事な戦力である女性の皆さんが「入船囃子」と「神楽囃子」を、そして最後の「掛塚屋台囃子保存会」のメンバーに合わせた動画を映しだし、笹に提灯をぶら下げて情緒ある掛塚祭りの雰囲気を出しました。

日頃の練習の成果もあり素晴らしい演奏で、最後の曲「出船囃子」では練りが登場し、演奏に参加してくれた西小の子供たちとひ組の皆さんも舞台上がり会場を盛り上げてくれました。世代を超えて祭りを楽しむ、そんな瞬間だったように思います。

演奏が終わり表彰式。この度50周年を迎えた保存会の活動に対し、市から感謝状をいただくことができました。

私が保存会の会長を引き受けたのは竜洋町が市町村合併により磐田市となつて二年目の事でした。

各町人手不足の現状でこの民俗文化財をどうやって継承して行くのか、掛塚囃子の良さを他の地域の人達に知ってもらうにはどうしたらいいのか、機材や器具の維持管理のための予算はどうしたらいいのか・・・等々、課題はたくさんありました。

お囃子の継承につきましても西小学校・西保育園等の授業に取り入れてもらい、保存会が指導に出向きました。

掛塚の良さを広める活動では、各町人数が少なく自治会への負担が大きいことも十分理解したうえで「掛塚を知ってもらおうチャンス」と強引にイベントへの参加を決めた事もありました。

会長に就任した当初、年に1回位だったイベントは、現在では海洋フェスタ、津島神社の祇園祭り、磐田大祭りの大行列等の参加により各町のイベント演奏が以前より多くなり、その為若者には演奏以外の負担をかけない様、保存会の本部役員と一緒に行事の活性化に心掛けました。

こうして11年間会長としてやってこれたのは掛塚の皆さんの協力があってからで、私の根底に「掛塚を外の人達に知ってもらい掛塚に住みたいと思ってもらおう。そうすれば掛塚は賑やか活活性化する。自分の生まれ育った土地を守りたい！」という想いがあるからです。

イベント終盤では山口大学の谷部准教授に「ふるさとの祭りを受け継いでいくために」と題した講演と、シンポジウム「祭の明日を考える」の進行役をお願いしました。掛塚以外の地区からもゲスト(パネラー)を迎え、それぞれの地域での問題点や取り組みなど、祭りの未来について意見交換をする事ができました。これを機会に世代を超えてみんなで一緒に町の活性化と民俗文化の継承について考えるきっかけとなつてくれたらと思います。

今回の50周年イベントはとて大変で苦労も多かったのですが、関係各所へ協力を仰ぎ、たくさんの方々に助けられ、当日は500人を超える方々にご来場いただき無事にやり遂げる事ができました。

掛塚屋台囃子保存会はこれからも市民の皆様のための活動が出来るよう頑張っていきますのでこれまで以上のご支援ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが私から皆さんにこの言葉を・・・「ありがとう」

掛塚屋台囃子保存会 50周年を迎えて

— 松山真 —

My hometown Kaketsuka

みんなと倶楽部

MINATO CLUB

掛塚

第 8 号

P1 掛塚屋台囃子保存会
50周年を迎えて
松山真

P2 行って来たに
「掛塚屋台囃子保存会
50周年記念シンポジウム」

P3 憧れへの挑戦！夢の箱根路
大石巧

P4 ちょっといーけ？
鵜飼光子さん（本町）

ちょっといーけ？

温故知新！掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組（のりこ&さゆり）がインタビュー。今回は、本町の鵜飼光子さんにお話を聞いてきました。

鵜飼光子さん 78歳（本町）



Q 当時の掛塚商店街の様子は？

そうですね、私の代で3代目。祖父が大正時代に始めたんです。豆腐づくりはぜんぶ手作業で、火を炊く原料の「おがこ」は河輪の製材屋さんから木の橋をリヤカーで運んでました。家族だけでは出来なかったから人を雇ってましたね。

祖父は天秤棒の先におけをぶら下げて肩に担いで、父やばは自転車の後ろに豆腐が入ったブリキの入れ物を載せて売りに行ってたよ。豆腐屋の「パププ」っていうラップも何処かにあったはずだけど、何処に行ってもなかったか・・・。

Q お手伝いはしましたか？

私は作る方はしなかったけど前野の方まで自転車で売りに行ったよ。お客さんが待ってるから慌てて自転車を漕いで行くと、容器が揺れて豆腐の下の方が潰れて粉々になって。それでもみなさん買ってくれましたね。途中からはカブ三輪バイクになり、バン(自動車)になつてと時代と共に変わっていったね。

昔は葬式も各家でやったからね、夜中や早朝に雨戸を叩いて起こされる事もありましたよ。三日目のお料理で「豆腐を50丁に油揚げを100枚」なんていう注文が入ると母は3日間徹夜になる事もあったんです。お祭りも忙しくて、友達に泊まりがけで手伝いに来てもらった事もありました。(笑)

豆腐屋も忙しく中学から浜松の西遠女子学園に通わせてもらったんだけど、クラスメイトはみんな当時景気の良かった織物屋や銀行員の娘で、私は家業が恥ずかしくて言えなかったんだよね。今思えば「豆腐屋」だって言えばよかったのにな。(笑)

Q 帝国館へは行きましたか？

行ったもなにも、それくらいしか楽しみも無かったしね。それに磐田にあった「スバル座」は親戚のおじさんがやってたから、友だちを連れてよく行きましたよ。売店にはパンが置いてあってね、私はレーズンパンが好きでした。(笑)

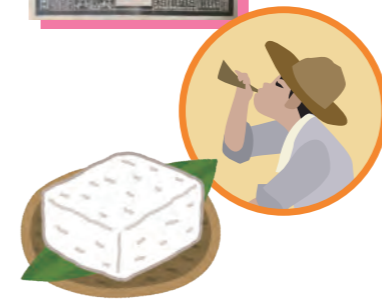
Q 現在の楽しみは？

まだ現役で仕事に行ってるよ。時々友だちを誘ってお昼を食べに行ったりカラオケに行ったり。市野のイオンには馴染みの店があってよく洋服を買に行きます。



←新場屋の「引き札曆」

おじい様の名前が入った貴重な「引き札曆」は額に入れられ大切に飾られていました。家業を辞めた後も働き続け、今も現役でお仕事をされている光子さんは年齢を感じさせないパワフルでフットワークの軽い「ねーさ」でした。
「取材・記事のりこ&さゆり」



予告 「掛塚寄席」6月9日(土) 開催します

磐田出身の講談師 真打の神田鯉風さん、落語家 二つ目の三遊亭楽八さんを迎えて本町の西光寺さんにて開催決定！
チケットの購入方法や寄席の詳細は近日中にポスター、チラシ、回覧板等でご案内します。

同日、津倉邸の公開、掛塚町あるきも同時開催予定！



講談師 真打 神田鯉風さん

落語家 二つ目 三遊亭楽八さん

みんなと倶楽部
My hometown Kaketsuka



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、佐藤喜好
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合、須田明広、長谷川智

お問い合わせ
ご興味のある方は
下記までご連絡ください！
☎ 0538-66-4775 (名)

憧れへの挑戦! ~夢の箱根路~

のりこ&さゆりが箱根駅伝で力走した大石 巧君に電撃インタビューしてきたに!



大石 巧さん(横町)城西大学3年駅伝部

保育園年少から高校まではサッカー少年だった。高校3年の選手権は県大会2次リーグで敗退。

さあ、次のステージへ!

大学ではスポーツの学部で学びたい。でも、一般(普通の)大学生にはなりたくない!

小二の時、従兄が箱根を走るのを見て憧れた。あんな風に選手を走らせる「箱根」って何だろう。自分で走ってその大きさを知りたい!!

箱根駅伝で走るにはどうすりゃいい?

高校の陸上部顧問の勧めで人生初の記録会へ行った。5000mの記録は15分32秒。その記録を持ってスポーツの学部がある駅伝の強豪校に自ら電話をして想いをぶつけたが、陸上競技の経験がないことで何校も断られた。でも、城西大学の櫛部監督だけはそんな自分を「面白い」と言ってくれた。「一回練習に来て」と。

駅伝選手としてゼロからのスタート!

大学一年の箱根駅伝はエントリーはされたが出番はなかった。実は2日ぐらい前には自分が大会に出られない事は聞かされていた。

駅伝では大会当日までチーム同士の駆け引きがあり手の内は明かささない。でも、新聞に名前が載った事もあり地元は大騒ぎとなった。翌年は残念ながらチームが箱根駅伝に出場でき



なかつた。そして3年生となった今年、チームは箱根への切符を手に入れた。

「その頃、地元掛塚では・・・」

「巧が箱根に出るよ。」と、私たちの親友でもある巧の母からの連絡。えーっ、おめでとう! みんなで法被を着て提灯持って応援に行こう! という輩(やから)まで現れ、また親類縁者が大騒ぎとなりました。

夢だった箱根デビュー

箱根駅伝2日目、復路の8区。8位でタスキを受け、強風の難しいコンディションの中順位を上げ、初出場にも関わらず区間4位の大健闘!

チームとしても7位に入り見事来年のシード権を獲得しました。

Q. 来年の箱根の目標は?

城西は2年連続シードを取った事がなく、過去最高記録が6位だから来年は連続シードを取って5位以内を目指します。

Q. 走りながら両親に「ガッツポーズ」?

まさか、あのすごい人混みの中で両親を見付けるとは思っただけで・・・奇跡だね。

Q. テレビで探したんだけど、ゴールの場所にいなかった?

実はドーピング検査しました。アンカーがゴールして走った選手達と喜んでいたらドーピング検査の人に呼ばれて・・・。シード校になったら各校一人ぐらいランダムに選ばれて検査をする。その一人に選ばれてしまったんです・・・(苦笑)

Q. 走っている時はどんなことを考えてますか?

走っている時に考え事をしたり、頭の中で好きな曲が流れている時、それはあまり良くない時ですね。集中できていて調子がいい時は「無」で何も考えてないです。

Q. 日体大の選手とずっと一緒に走ってましたね?

自分より少しタイムが速い山口くん(日体大)について行けばうまく走れるのが分かっていました。レース中、周りに人がいない時に山口くんから「一緒に前を追いかけよう!」と声をかけられて。走り終わって二人に友情が芽生えました。(笑)

Q. 毎日どれくらい走るんですか?

練習では毎日30kmは走ります。休日にはそんなに走りませんが多い日は60km走る事もありますよ。走る事は得意だけど好きなわけじゃないです。チーム内でも好きで走っている人の方が少ないですよ。それでも、走り終わった時は今まで味わった事のない達成感があるんです。

今回はご家族が見守る中での取材だったので、ご両親にも質問を。「感動しました?」とお聞きしたら「感動というよりもホッとした。」とのお返事が。どうやら選手の親御さんも相当なブレッシャーと闘っていたようです。来年のお正月は現地で応援したいなあ・・・法被正装で提灯を高く掲げて沿道に整列したい! (笑) 取材: のりこ&さゆり



1月20日 行って来たにいい

「掛塚屋台囃子保存会 50周年記念シンポジウム」



川袋に生まれ育った自分にとって屋台囃子といえば、「うらやましー! 掛塚に生まれたかったー!」の一言(笑)でもたった一度だけ砂町の屋台に乗って、テンテコテンテコテンテコテン♪と小太鼓を叩かせてもらいました。あのときの誇らしい気持ちはずっと忘れられませんが、そんな掛塚屋台囃子保存会が50周年ということで、シンポジウムにお邪魔してきました。

横須賀三社祭囃子保存会の見応えたっぷりの演奏と舞から始まって、西小2年生の鍵盤ハーモニカを使った演奏、ひ組女性の演奏が続き、会場内は楽しい秋のお祭りムード。自然に身体が揺れてポカポカしてきました。保存会の演奏では、提灯が揺れる演出もあって、「これぞ掛塚屋台祭り!」の雰囲気たっぷりでした。

そして「祭りの明日を考える」第二部。山口大学谷部准教授による講演では、祭りの後継者不足への対応について、山口市小鯖地区で担い手の資格が段々に緩和されてきた事例が紹介されました。元々は特定の区の長男だけが参加できたのが、長男以外も可になり、今では小鯖地区以外の人でも参加できる。そうしないと祭りが維持できない、と。

続くシンポジウムでは冒頭から、「掛塚9町で35歳までの若者人口は現在55名。5年後には29名に減ってしまう。」

「横須賀の祭りは52%の助っ人で成り立っている。小さな町では90%が助っ人。」など、衝撃的な数字が伝えられます。6人のパネラーが、口々に祭りの後



一度だけ乗せてもらって小太鼓を叩いたことがあります

記事 須田明広

継者問題を語るのを聞きながら思いを巡らせました。

ずっと地元で頑張ってる人はもちろん、遠くに住んでるけどお祭りには必ず帰ってきて屋台を引いている同級生もいて、単にお祭りが好きというだけじゃなくて、お囃子、屋台の運行、しきたり・・・などなど、上の世代から受け継いで、そして次の世代に伝えるために頑張ってる人々もいます。

そうやって継承されてきた掛塚の祭りは、横須賀の保存会の方が仰ったように「自分たちの祭りは、自分たちが思っているよりも他所の人から見ると魅力的」なのだと思います。

魅力的な屋台祭り、魅力的な掛塚を後世に伝えていくこと。みんなと倶楽部の活動を通して、自分にもできることは何か? 考えていきたいと思っています。